

午後 I 試験

問 1

問 1 では、“ステージゲート”の制度を題材として、システムの投資対効果を判断し、経営判断に生かすための真に役立つ制度であるかどうかの監査について出題した。

設問 1 は、業務の主管部門がシステムオーナーとして登録されているかどうかを解答させる問題で、正答率は高かった。

設問 2(ii)は、“費用項目の不足が発生しないようにするためのコントロール”が存在するかどうかを確認するための監査手続を問う問題であるが、(i)で解答した費用項目が漏れていないかどうかを確認する監査手続の解答が目立ち、正答率は低かった。監査実務においても監査の目的に合致した監査手続を設定することを実践してほしい。また、本問は、“監査手続”を問う問題であるが、確認するポイントだけの解答が散見された。監査手続には、監査手法や確認する対象を明記することが必要であることを理解してほしい。

設問 5 は、正答率は低く、“審査基準に従って審査していること”といった、審査のプロセスについての解答が目立った。実効性のある審査が行われるための監査要点としては、審査実施者がプロジェクトの利害関係者でないことや、システム開発や対象業務に知見のある者が実施することが望ましい、という点に関連付けて解答してほしい。

問 2

問 2 では、データ分析システムを題材として、データの収集・蓄積とデータの活用に伴うリスクを踏まえて、対応したコントロールが行われているかどうかの監査について出題した。

設問 2 は、個人情報管理のコンプライアンスを確保するためのコントロールを解答させる問題であり、正答率は低かった。一般的な個人情報管理のコントロールを示した解答が多く見られたが、本文に示された状況から、問題特有のリスクを理解するように留意してほしい。

設問 3 は、サービスレベルの設定に伴うリスクを解答させる問題であり、正答率は低かった。単にサービスレベルが高すぎるという要因にとどまらず、結果としての運用コストの増加という悪影響まで含めて、リスクを明確に定義する能力を養ってほしい。

設問 4 と設問 5 は、監査手続を解答させる問題であり、監査証拠の入手方法と、確認すべきポイントの両方を明確に示すことを求めている。設問 4 では、活用検討会に着目していながら、監査証拠としての具体的な文書を記述していない解答も見られ、正答率は低かった。

問 3

問 3 では、販売管理システムを題材として、比較的小規模な改修であっても生ずる可能性のある情報システムリスクを見極め、適切なコントロールが設定されているかどうかの監査について出題した。

設問 1 は、受注責任者の承認に代わるコントロールを解答させる問題であり、正答率は高かった。システム機能によるコントロールに関する理解ができているものと思われる。

設問 2(1)は、監査手続において照合を行う文書名を解答させる問題であるが、正答率は低かった。設問で“本文中の用語を用いて”としており、解答しやすい問題であるが、文書名以外の解答や本文中にない用語による解答が多かった。

設問 3 は、少額受注の受注責任者による承認の省略についてのリスクとコントロールを解答させる問題である。リスクに関する正答率は高かったが、コントロールに関する正答率は低かった。“承認の省略によって発生するリスク”に対するコントロールを解答してほしい。

設問 4 は、監査手続を解答させる問題であるが、監査手続によって確認する対象だけを記述した解答が多かった。監査手続を記述する場合、確認する対象に加え、確認するポイント、適用する監査手法を含める必要がある。